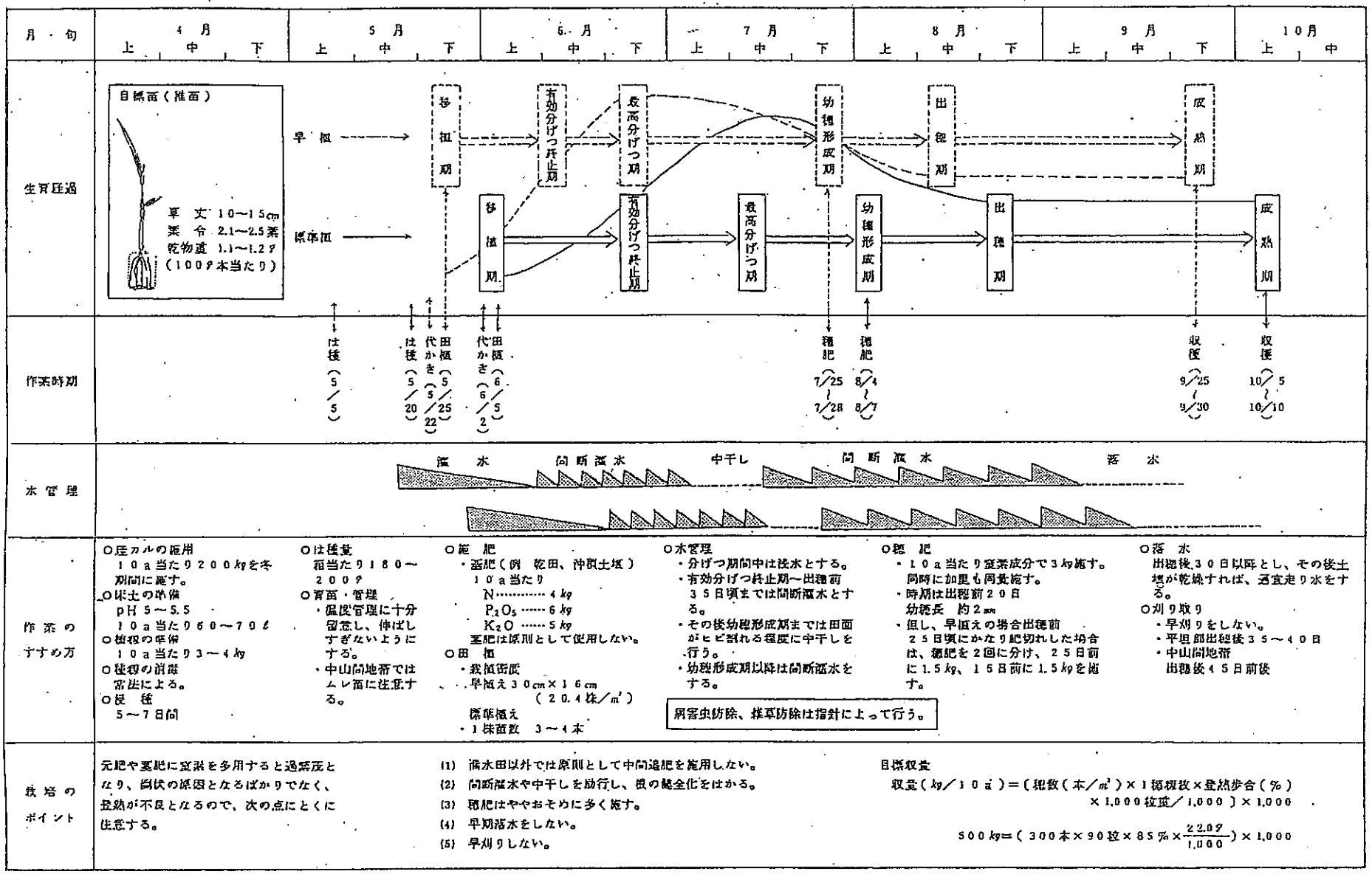
4. 「ヒノヒカリ」の栽培暦


月・旬
4月 上 中 下
5月 上 中 下
6月 上 中 下
7月 上 中 下
8月 上 中 下
9月 上 中 下
10月 上 中
生育経過
目標苗（推苗）
草丈 10〜15cm
葉令 2.1〜2.5葉
乾物重 1.1〜1.2g
（100g本当たり）
早植
標準植
移植期
有効分げつ終止期
最高分げつ期
幼穂形成期
出穂期
成熟期
作業時期
は種 5/5
は種 5/20
代かき 5/22
田植 5/25
代かき 6/2
田植 6/5
穂肥 7/25〜7/28
穂肥 8/4〜8/7
収穫 9/25〜9/30
収穫 10/5〜10/10
水管理
湛水
間断湛水
中干し
間断湛水
落水
作業のすすめ方
○圧ガルの施用
10a当たり200kgを冬期間に施す。
○床土の準備
pH 5〜5.5
10a当たり60〜70ℓ
○種籾の準備
10a当たり3〜4kg
○種籾の消毒
常法による。
○浸種
5〜7日間
○は種量
箱当たり180〜200g
○育苗・管理
・温度管理に十分留意し、伸ばしすぎないようにする。
・中山間地帯ではムレ苗に注意する。
○施肥
・基肥（例 乾田、沖積土壌）
10a当たり
N……4kg
P2O5……6kg
K2O……5kg
窒肥は原則として使用しない。
○田植
・栽植密度
早植え 30cm×16cm
（20.4株/m²）
標準植え
・1株苗数 3〜4本
○水管理
・分げつ期間中は湛水とする。
・有効分げつ終止期〜出穂前35日頃までは間断湛水とする。
・その後幼穂形成期までは田面がヒビ割れる程度に中干しを行う。
・幼穂形成期以降は間断湛水をする。
○穂肥
・10a当たり窒素成分で3kg施す。
同時に加里も同量施す。
・時期は出穂前20日
幼穂長 約2mm
・但し、早植えの場合出穂前25日頃にかなり肥切れした場合は、穂肥を2回に分け、25日前に1.5kg、15日前に1.5kgを施す。
○落水
出穂後30日以降とし、その後土壌が乾燥すれば、通常走り水をする。
○刈り取り
・早刈りをしない。
・平坦部出穂後35〜40日
・中山間地帯
出穂後45日前後
病害虫防除、雑草防除は指針によって行う。
栽培のポイント
元肥や基肥に窒素を多用すると過繁茂となり、倒伏の原因となるばかりでなく、登熟が不良となるので、次の点にとくに注意する。
(1) 湛水田以外では原則として中間追肥を施用しない。
(2) 間断湛水や中干しを励行し、根の健全化をはかる。
(3) 穂肥はややおそめに多く施す。
(4) 早期落水をしない。
(5) 早刈りしない。
目標収量
収量（kg/10a）＝（穂数（本/m²）×1穂粒数×登熟歩合（%）×1,000粒重/1,000）×1,000
500kg＝（300本×90粒×85%×22.0g/1,000）×1,000